



# 金透太鼓



令和6年 12月 6日(金) 学校だよりNo.39 発行責任者 校長 嶋 忠夫

## 自分たちの学校を 自分たちの手で!

ある日の休み時間のこと。5年2組の〇〇〇〇さんと〇〇〇〇さんが校長室を訪ねてきてくれました。二人の話を聞くと、休み時間の終わりを告げる金透太鼓が鳴ったあとの行動に課題があり、それを全校生で直していくために、校内にポスターを貼ってもいいですかとのことでした。

金透太鼓は、本校の伝統の一つで、休み時間に元気いっぱい遊んだ後、落ち着いて教室に戻り、次の学習をがんばられるように、太鼓が鳴ったら校旗や校章に注目して心を落ち着かせることとなっています。

しかし、太鼓が鳴ってもおしゃべりをしたり、昇降口まで走ったりと落ち着いていないことを課題として捉え、5年2組で話し合ったところ、ポスターを作って掲示し、全校生に注意してほしいと考えたそうです。私からは、「とても素晴らしい考えですね、ぜひ、がんばってください」と励ましました。

自分たちの学校生活に課題意識をもち、その解決策を考え、実行しようとしている5年生に感動しました。また、2学期の始業式で校長が話した3つの大切にしてほしいこと「生命、時間、けじめ」のうちの「けじめ」について考えてくれたこと、とてもうれしく思いました。

自分たちの学校をよりよくするために、自分たちで考え、実行しようとしている5年生をととても頼もしく思えました。最高学年になる準備を着々と進めている5年生です。



## ちょっといい話

ある寒い日の朝のことです。いつものように、西門の前の交差点で、子どもたちが登校するのを見守っていると、私が寒そうにしていたからでしょうか、3年生の〇〇〇さんが、元気なあいさつとともに「校長先生、寒いのに、いつもありがとうございます。」と声をかけてくれました。

寒い朝が、一瞬にして心がぼかぼか暖まるすてきな朝になりました。

言葉は、人の心を暖かくしたり、逆に冷たくしたりもします。友達同士であっても、ちょっとした一言で元気が出たり、逆に嫌な気持ちになったりします。私たち大人の何げない一言も、子どもたちを元気づけたり、嫌な気持ちにしたりします。

言葉の重みを自分自身振り返りながら、子どもたちと一緒に考えていきたいものです。

